

1. 研究課題名：RF-1010 熱帯林の断片化による雑種化促進リスクと炭素収支への影響評価

2. 研究代表者氏名及び所属：
市栄 智明（高知大学）



3. 研究実施期間：平成 22～23 年度

4. 研究の趣旨・概要

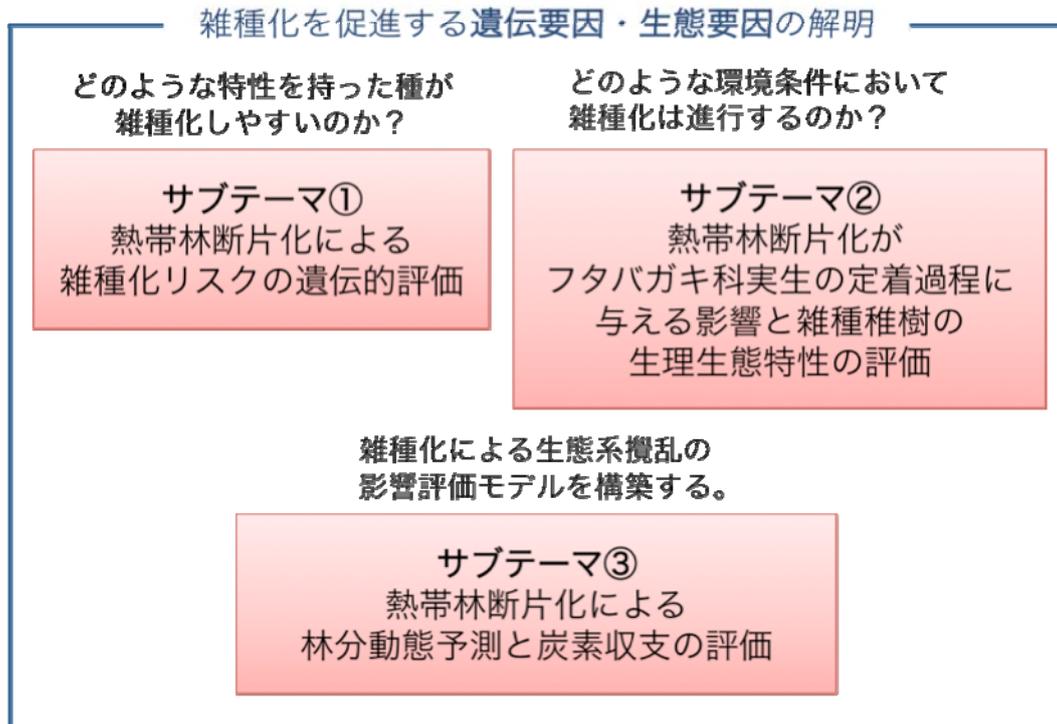
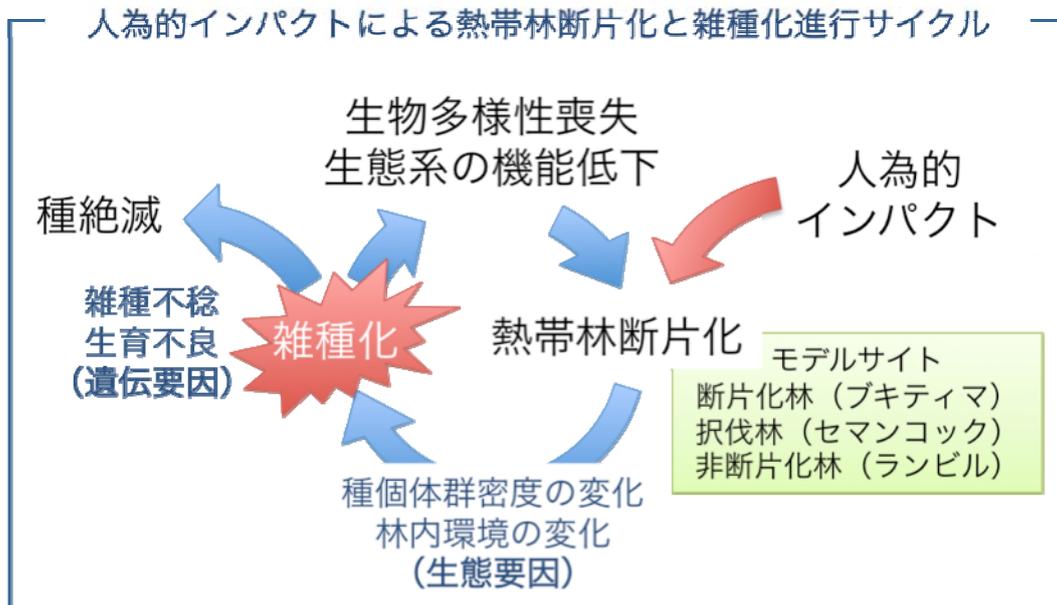
東南アジアの熱帯林では、人為的攪乱により森林の劣化や断片化が進行し、本来の生態系サービスの提供が脅かされている。さらに、長期間断片化されたシンガポールの熱帯雨林において、優占種であるフタバガキ科樹種の間で雑種形成が起こっていることが近年確認された。雑種個体は多くの場合生育不良や低い環境適応能を示すため、雑種化の進行はその種の絶滅を促進させる可能性がある。本研究では、フタバガキ科樹種の雑種化が、森林の動態や炭素固定能に与える影響を評価し、雑種化を回避するための保全手法の開発を目指す。

これにより、東南アジア地域での森林保全政策に対するガイドライン策定に直接的に貢献できる。

5. 研究項目及び実施体制

- ① 熱帯林断片化による雑種化促進リスクの遺伝的評価（大阪市立大学）
- ② 熱帯林断片化がフタバガキ科実生の定着過程に与える影響と雑種稚樹の生理生態特性の評価（高知大学）
- ③ 熱帯林断片化による林分動態予測と炭素収支の評価（(独)森林総合研究所）

6. 研究のイメージ



- アウトプット**
- 東南アジア熱帯地域における地球環境政策等への貢献
 - REDDスキームへの貢献
 - 熱帯雨林における森林劣化現象解明への科学的貢献
 - 雑種化を指標としたリスク評価方法の開発
 - 地球規模での生物多様性観測ネットワークへの貢献